

令和6年度独立行政法人教職員支援機構における連携教職大学院等を対象とする地域センター事業

令和6年度道徳ラボ成果教材  
「道徳ラボ15分・30分研修支援シート集」



四国地域教職アライアンス香川大学センター  
令和7年3月



## は じ め に

### 令和 6 年度道徳ラボ成果教材の刊行にあたり 「道徳ラボ15分・30分研修支援シート集」

小学校においては、平成30年の特別の教科 道徳の全面実施から、はや7年が、中学校でも6年が経過した。さて、学校における道徳科の授業時間の量的確保だけでなく、質的充実はどうような状況であろうか。教師間格差や学校間格差が見られるとの指摘はどのように改善や解決が図られているのだろうか。これらの改善や各教員の道徳教育に対する意識向上の大きな鍵となるのが、道徳教育に係る校内研修の充実である。

一方で働き方改革のもと、校内研修の時間設定も厳しい状況である。昨今、特に教員不足、教員採用試験の倍率低下などの一要因として教員の多忙な現状の改善が喫緊の課題として叫ばれてきた。つまり、教職員の資質能力向上に効果的な研修は必要でも、その時間を生み出すことは至難の業ともいえる学校現場の状況を踏まえた研修の実施、充実が求められているといえる。

四国地域教職アライアンス香川大学センター、本学教職大学院では、これまでに、令和元年度の道徳ラボ成果教材として「道徳ラボ 一校内研修の充実ー 30分で挑戦!演習用シート教材集」を作成し、配布してきた。「道徳ラボ15分・30分研修支援シート集」は、令和元年度版を基盤として、新たに15分でも取り組める内容を加えて充実を図った。その際に令和6年度の道徳ラボ成果教材として、上記のような状況も踏まえながら、管理職や道徳教育推進教師、研究主任など、校内研修を推進するうえで、キーマンとも言える皆さんに分かりやすく実践の一助となることを心がけて編集してきた。

また、若手教員の研修にも活用できるように、出来るだけ平易な言葉で記述すること、学習指導要領の関係箇所も明示することなどにも配慮した。

各校で道徳科や道徳教育を推進する際、推進する様々な立場の先生方にとって、道徳教育に係る校内研修の充実につながる研修シートとなればと願っている。さらには、学校教育活動全体で取り組む道徳教育の充実、そして児童生徒の道徳性の発達や健全な成長につながってほしいと祈願する。校内研修を組織として展開する道徳教育推進の一助となれば幸いである。

令和7年3月1日

植田 和也

## 目 次

はじめに

|                           |   |       |
|---------------------------|---|-------|
| 教員に求められる資質能力の経緯と短時間研修のすすめ | … | 1 ページ |
|---------------------------|---|-------|

### ≪ 15分 研修支援シート ≫

|                             |   |        |
|-----------------------------|---|--------|
| 1 道徳科の授業における課題確認            | … | 6 ページ  |
| 2 自校の道徳教育や学校の重点目標の確認        | … | 7 ページ  |
| 3 道徳科の計画と実践をつなぐ工夫           | … | 8 ページ  |
| 4 自らの描いている道徳科授業の具体的なイメージ化   | … | 9 ページ  |
| 5 授業構想シートを活用した教材分析          | … | 10 ページ |
| 6 道徳科に生かす指導方法の工夫を具現化        | … | 11 ページ |
| 7 板書写真から授業についての振り返り         | … | 12 ページ |
| 8 ICT を活用した道徳授業の振り返りと改善     | … | 14 ページ |
| 9 研修目標から、研修と自分の振り返り         | … | 15 ページ |
| 10 研修と研修の間の期間を生かして、研修の「自分事」 | … | 16 ページ |

### ≪ 30分 研修支援シート ≫

|                              |   |        |
|------------------------------|---|--------|
| 11 道徳科の年間指導計画の見直し            | … | 18 ページ |
| 12 道徳科の多様な導入                 | … | 19 ページ |
| 13 教材を読み込み、中心発問の構想           | … | 20 ページ |
| 14 問い返しの構想                   | … | 22 ページ |
| 15 生成 AI を活用した中心発問と問い返しの検討   | … | 23 ページ |
| 16 ロイロノート・スクールを活用した授業構想      | … | 24 ページ |
| 17 板書計画からの授業構想               | … | 25 ページ |
| 18 役割演技を活用した葛藤場面の視覚化         | … | 26 ページ |
| 19 多面的・多角的に考えるための活動や思考ツールの検討 | … | 27 ページ |
| 20 研究授業前に授業観察シートの作成          | … | 28 ページ |
| 21 若年教員の研修 ～中心発問について～        | … | 31 ページ |
| 22 模擬授業を通しての内容項目の深い理解        | … | 32 ページ |
| 23 授業後の討議で発問についての振り返り        | … | 33 ページ |
| 24 生活単元学習や自立活動と道徳教育・道徳科との関連  | … | 34 ページ |
| 25 協働ブラッシュアップ型道徳授業           | … | 36 ページ |

|                 |   |        |
|-----------------|---|--------|
| これまでの「道徳ラボ」研修教材 | … | 37 ページ |
| 編集、執筆者、作成協力者一覧  | … | 40 ページ |
| 道徳ラボ運営組織体制 あとがき | … | 41 ページ |

## 教員に求められる資質能力の経緯と短時間研修のすすめ

### 1 研究と修養が求められる教師としての道

教育の本質は、教師と児童生徒の人格的な触れ合いにあり、知識、技術の伝達とともに、教育を受ける者の人格の完成をめざしてその成長を促す営みである。いつの時代も教育について論ずる際、その担い手となる教師の姿や有様が問われてきた。教育環境には人的環境、物的環境があるが、教師は子どもとともに多くの時間を過ごし、子どもたちの成長・発達と深く関わるのである。それだけ子どもの成長にとって教師の存在は肝要なのである。

教師にとって、学び続ける姿勢、まさに研修を通しての力量向上は言うまでもないが、教育基本法第九条（平成18年改正）や教育公務員特例法第二十一条でも規定されている通り、「**絶えず研究と修養**」に努めなければならない。研修を通じて、職責の使命を自覚し職務を遂行しなければならないのである。ここで言われる修養について確認しておきたい。

「精神を錬磨し、優れた人格を形成するようにつとめること」（広辞苑）

つまり、教師には教科書の内容や専門的な知識を分かりやすく教える技術的な側面だけでなく、人間としての品性や人格の向上が強く求められている。この点は、教師に求められる資質能力として常に問われ続けてきたことであり、子どもの前に立つ教師である以前に一人の人間としての姿勢そのものが問われているといっても過言ではない。換言すれば、**教師自身の成長し続ける姿、自らを磨き高めようとする姿勢**が子どもに大きな影響を与えるのである。

### 2 答申等で教員に求められてきた資質能力

#### （1）H17：優れた教師の条件、H24：学び続ける教員像、H27：アクティブ・ラーニング型研修

遡れば、約20年前の平成17年10月に示された中教審答申「新しい時代の義務教育を創造する」では、「**教師力、学校力、人間力**」として3つの力が明記され、義務教育の改革や充実が叫ばれた。さらに、「**優れた教師の条件**」として次の3項目が提示された。

- ①教職に対する強い情熱（教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など）
- ②教育の専門家としての確かな力量（子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力など）
- ③総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人間関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していくこと）

そして、平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、平成9年、17年各答申の基本的な考え方は今後も尊重していくとしたうえで、専門性の向上や最新の専門的知識や指導技術等を身に付けていくこと、『**学びの精神**』が強調された。その後、平成24年8月の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、学び続ける教員を支援する仕組みの構築（「**学び続ける教員像**」の確立）が必要とされるとともに、初任段階の教員が困難をかかえており、養成段階における実践的指導力の育成強化が求められた。

その点からも、教員の資質能力向上には養成・採用・研修の各段階における充実・改善とともに連携が重要であることが確認され、その在り方の見直しが議論されてきた。

また、平成27年12月の中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」では、教員の資質能力の向上について、研修・採用・養成の各段階における主な課題が指摘された。研修では、多忙で時間確保が困難なことや自ら学び続けるモチベーションを維持できる環境整備の必要性、**アクティブ・ラーニング型研修への転換**等が求められたのである。そして、これからの時代の教員に求められる資質能力として次の3点が明示された。

- これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力。
  - アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化・教科化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量。
  - 「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力。
- （平成27年12月 中教審答申：9頁）

さらに、教員研修に関する改革の具体的な方向性として、「教員は学校で育つ」ものであり、同僚の教員とともに日常的に学び合う OJT (On the Job Training) や自ら課題を持って自律的、主体的に行う研修の重要性が指摘された。このような流れの過程があり、現在の「令和の日本型学校教育」につながってきている。

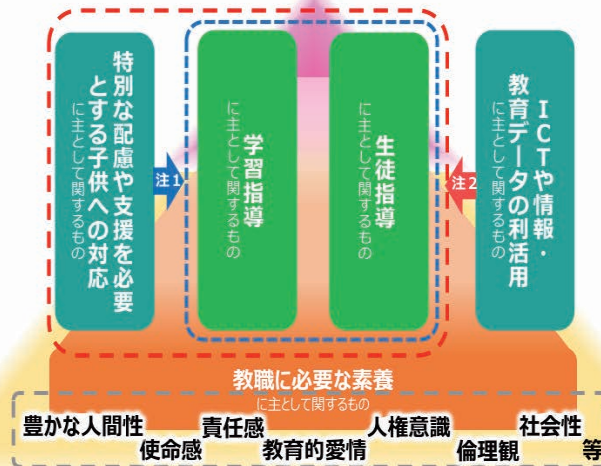
## （2）「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる資質能力

令和3年並びに令和4年中教審答申は、平成31年4月の「新しい時代の初等中等教育の在り方について」（諮問）以降、「令和の日本型学校教育」の在り方について継続的な議論がなされてきた延長線上にあるといえる。（詳細は、R4答申 28-30 頁を参照）

令和4年の中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～では、今後、子供たちの学び（授業観・学習観）とともに**教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」**を実現することが求められた。

その際、教師に求められる資質能力の再整理として、平成29年3月に策定された「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」で、指標の内容に係る観点として、○教職を担うに当たり必要となる素養、○教育課程の編成、教育又は保育の方法及び技術に関する事項、○学級経営、ガイダンス及びカウンセリングに関する事項、○幼児理解、児童理解、生徒理解及び生徒指導・キャリア教育に関する事項、○特別な配慮を必要とする幼児、児童及び生徒への指導に関する事項、○学校運営に関する事項、○他の教職員との連携及び協働に係る事項、が示された。

さらに、令和3年答申が示した教師像を、「教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている」と示していること、また、具体的に必要な資質能力として、ファシリテーション能力やICT活用指導力等が挙げられていることなどから、文部科学省は、令和4年8月31日に資質能力に係る指針を改正し、その柱として、図に示すような①教職に必要な素養、②学習指導、③生徒指導、④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、⑤ICTや情報・教育データの利活用、の5項目に整理し、構造的に示した。



※ 上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

【文科省 HP 公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針】

### 3 できることをまず一歩 ～短時間でもできることから～

様々な面で厳しい学校環境下であるが、研修はさせられるのではなく、教員自らが自身の資質能力向上のために主体的に取り組むことが不可欠である。研修への主体性と自らのこととして取り組む当事者性が、実りある研修につながるうえでも重要な鍵となる。

周知の通り、令和の各中教審答申でも校内研修や授業研究の重要性に加えて、各学校や個人に応じた研修をデザインすることの肝要さが指摘され、教師の学びと子どもの学びは相似形として表現されるなど、教育者として学び続ける姿が一層希求されている。

校内で全教職員が集い、集中的に多様な研修が継続できれば理想だが、各学校の現状を踏まえたうえで、短時間でもできることから何か一つ取り組んでいきたい。小さな一歩からでよい。時間が15分しか取れないなら、その貴重な15分でできることに内容を絞ることから考えてほしい。30分なら、30分でできることを具体的にイメージすることからである。

本研修支援シートでは、短時間（15分や30分）での個人、学年団、校内研修をイメージし、道徳科の授業づくり、道徳教育の推進に関して、研修内容を参考例として示している。「15分・30分研修」としたのは、令和元年度版の「30分で挑戦！研修シート」と同様に

- ① 如何に集まる時間を少なくできるか
- ② そのために事前に各自ができることは何か
- ③ 研修担当者はどのような準備をしておくかスムーズにできるか

といった観点から、各学校の現状に合わせて短時間での研修を試みて欲しいという考えからである。あくまでも一つの手順や方法としての提案なので、各学校等の実情に応じて、使いやすいようにアレン

じしたり、自らの学校の取組を新たにまとめて紹介したりしていただくなど、短時間でもできる校内研修や学年団研修の広がりを期待するところであり、自分たちで校内の状況を踏まえて**研修を自らデザイン**することを愉しんでほしいと願っている。

#### 4 自校の状況にあった研修内容の企画

道徳教育に関する演習や作業などを取り入れた研修も多様に考えられるが、教員が主体的に取り組むには、内容が自校の状況や実態に応じているかという点が重要である。その点から、道徳教育推進教師が研修主任や教務主任と、自校の道徳教育の状況をイメージしながら校内研修の企画・実施を具体的に検討することにも挑戦してほしい。例えば、全体での校内研修以外にも、若手教員の道徳教育研修を実施するとすれば、どのような内容や具体的な展開を考えてみることもよい。下記は、あくまでも検討の手順例である。

- ① 自校の道徳教育の状況等を踏まえて、可能な時間（例：15分や30分以内）の研修で、できそうな内容を思い浮かべてメモする。さらに、目的（何のために）を考える。その際に、教育計画や事前に教職員からアンケート等で希望を聞いておくことも考えられる。例えば、内容をイメージする際に、次の視点から検討もできる。
  - 今年度の重点方針や事項に関することで管理職が繰り返し話している内容で・・・。
  - 今年度、取り組み実践するはずだが十分にできていないことに関する内容で・・・。
  - 児童生徒の現実の姿で、何とかしたい思いを感じていることを思い浮かべて・・・。
- ② 研修でめざすゴールを具体的に描く。その際に、めざす姿をより具体的に、「研修後に、〇〇がここまでできていれば・・・。」と描くことである。
- ③ 研修の内容や手順を分かりやすく書いてみよう。事前に準備できそうなことは何か、参加者が持参すべきもの等を具体的に検討しておきたい。また、事前の研修ニーズ把握アンケートを活用し、2年計画で取り組むことや方法等のアイデア募集も考えられる。さらに、取り組みたい内容は、学習指導要領解説特別の教科道徳編や総則編での関係箇所を確認しておく。
- ④ ここまでできれば、簡単に研修の手順を整理して、研修にあった名前を付けてみよう。そして、研究主任や教務主任と相談し、時間の位置付け等について話してみよう。

「学び続ける教員像」、「研修のデザイン」と言われるように、常に教師としての在り方を自律的に問い続けていこうとする、「**教師自らが、自らの在り方を、自らに問い続ける**」ことを基点として研修に臨んでほしい。各校の校内研修が現状を把握しながら、一步一步推進されることを願いたい。

参考文献：七條正典監修、植田和也、浅部航太、清水顕人、鈴木賢一、小島啓明編 2022

「道徳科を要とした道徳教育の推進～校内研修の充実を求めて～」美巧社

# 15分研修支援シート

---

- 1 道徳科の授業における課題確認
- 2 自校の道徳教育や学校の重点目標の確認
- 3 道徳科の計画と実践をつなぐ工夫
- 4 自らの描いている道徳科授業の具体的なイメージ化
- 5 授業構想シートを活用した教材分析
- 6 道徳科に生かす指導方法の工夫を具現化
- 7 板書写真から授業についての振り返り
- 8 ICTを活用した道徳授業の振り返りと改善
- 9 研修目標から、研修と自分の振り返り
- 10 研修と研修の間の期間を生かして、研修の「自分事」



## 研修Ⅰ > 道徳科の授業における課題確認

### 事前に準備しておきたいこと

- ・自らの課題を意識するために、学習指導要領解説特別の教科道徳編で道徳科の目標や「道徳科に生かす指導方法の工夫」等を読み直し、再確認しておく。

### その場に準備しておきたいもの

- ・付箋（2種類の色、例：黄色・水色）
- ・画用紙か模造紙（グループの数だけ）

### 1 手順と指示する内容

- （1）道徳科の授業における自らの課題を意識することで、授業改善の一步につなげるという研修の目的を説明する。自らの課題を黄色の付箋に書き出す。1枚の付箋に1つの課題を書くようにする。《5分程度》

道徳の授業における私の課題は・・・

- （2）付箋を画用紙か模造紙に貼り、各自の課題をなかま分けする。全体を見ながら、互いの課題を確認する。《5分程度》



【課題をなかま分けする様子】

- （3）課題を見ながら、自分が授業改善のために意識したいことを水色の付箋に書き、グループや全体で共有する。《5分程度》

### 2 アンケートの利用

考えにくい場合は、まず下記のような簡単なアンケートを行うことも考えられる。

「道徳科において目指す授業を考えると、現在のご自身の授業における悩みや課題は何ですか。授業を行うとすれば、あなたが最も悩んだり困ったりすることを考えてみましょう。」

【自らの実践を振り返りながら、あなたの悩みを具体的に想起してみよう。】

- ① ( ) どう教材を読みこめばよいのか？ 教材分析の手順や視点について
- ② ( ) 紙芝居かな、ICT 活用かな？ 教材(資料)の提示や出会わせ方について
- ③ ( ) 指導案をどう書けばよいのかな？ 指導案の書き方や表現について
- ④ ( ) 子どもの考えや意見の取り上げ方が・・・？ 効果的な話し合いについて
- ⑤ ( ) 何について考えさせようとしているのかな？ ねらいとなる中心価値について
- ⑥ ( ) どう問いかけようかな？ 考えが深まる中心発問について
- ⑦ ( ) どう黒板にまとめていこうかな？ 効果的な板書の在り方について
- ⑧ ( ) どのような活動や交流を取り入れようかな？ 効果的な学習活動について
- ⑨ ( ) 子どもの学びの見取りや評価をどうすればよいのか？ 評価について
- ⑩ ( ) その他 ( )

## 研修2 > 自校の道徳教育や学校の重点目標の確認

### 事前に準備しておきたいこと

- ・教育計画から、今年度の道徳教育の特徴や学校の重点となる内容項目を確認しておく。
- ・4月の職員会等で配布された教育方針や道徳教育関係の資料を準備する。

### その場に準備しておきたいもの

- ・道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉を用意する。

### 1 ねらい

教育計画ができあがった頃に、自校の道徳教育や学校の重点を誰かに聞かれた場面を想定し、その相手に分かるように語れることで、今年度の自校の特徴や重点を語れるようになること。そのやりとりを通して、自校の道徳教育への理解を深めることができる。

上記のような研修のねらいを、研修担当者が最初に簡単に説明し取り組むとよい。

### 2 研修の手順

(1) 2人か3人で1組(できれば経験年数の長い方と短い方がペアに)をつくる。《1分》

(2) 誰かから聞かれればと(様々な相手を)想定して語ろう。

聞き役と答える役になってやってみよう《10分》

ア：他校の教職員(聞き役)から「学校教育活動全体で取り組む道徳教育で何に力をいれていますか、特色や重点は？」とあなたが聞かれれば何と答えますか。

イ：もし、転入してきた子どもの保護者(聞き役)から「〇〇学校はどのような学校ですか。伝統や大切にしていることと言えば？」と聞かれれば何と答えますか。

ウ：地域や保護者の方(聞き役)から、「〇〇学校ではどのような児童生徒を育てようとしているのですか？」と聞かれれば何と答えますか。

(3) 聞き役の方は、その立場で聞きながら感じたことやイメージができたのかについて、答える役の方にフィードバックをしよう。《2分》

(4) さらに、数分でよいので、事前に用意した道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉を読み直し、今年度の自校の重点を具体的に再認識することも効果的である。《2分》

例えば、以下のようなことで再認識をすることも考えられる。時間が無ければ、学年団会等で行うか、各自で事前に確認することも考えられる。

- ・道徳教育全体計画から重点となる目標や内容項目を確認すること
  - ・年間指導計画で(複数時間扱いの)重点内容項目の教材や時期等を確認すること
  - ・別葉における重点内容項目に係る教科等や体験活動等の関連を確認すること
- その際に、計画等に印や色を付けるなど、視覚的に意識できるように工夫するとよい。

### 研修3 > 道徳科の計画と実践をつなぐ工夫

#### 事前に準備しておきたいこと

- ・年間指導計画（35時間）を可視化するためのアイデアや他校の事例等を可能な範囲で収集しておきたい。道徳教育推進教師が教職員に情報提供を呼び掛けておくとうい。
- ・計画と実践のずれをどのように記録、修正すればよいのか、量的確保のために具体的にできることは何かなどを各自で考えておく。

#### その場に準備しておきたいもの

- ・実践例を紹介し合うための写真やワークシート等があれば準備しておく。

#### 手順と指示する内容

- 1 道徳教育推進教師から、事前に集まっている事例や情報をできれば視覚的に伝える。《5分》
- 2 各自が考えてきたこと、できそうだと思うことを補足する。具体的にどんなことができそうか、どんなことを実践しているかを情報交換する。《5分》
- 3 管理職や道徳教育推進教師、各推進リーダーが、実践例を補足する。《5分》

#### 例

- ・職員室の壁に年間指導計画をはり、実践で差し替えたりしたものは朱書する。
- ・背面黑板に実践した道徳の授業の内容を掲示する。
- ・学級通信に実践した教材の板書、児童生徒の感想を掲載する。
- ・学期に1、2回、副担任や専科教員によるローテーション道徳授業を実施する。
- ・毎回の授業で、板書のタイトルの上に第〇回と記載する。
- ・道徳の授業で活用した資料や板書データを保管、共有できるように整理する。等

- 4 学年団で実践できそうなことはどれかを考え、残り時間で準備や作業に取りかかる。

- ・道徳教育推進教師は、各学年の実践計画を把握する。
- ・学期末に実践の進捗状況の情報交換をして、次の学期に活かす。



#### 見直し作業

- ① 学習した教材（道徳科）にラインを引く。
- ② 教材と関連のある他の教育活動にマーカーし、ラインで結ぶ。
- ③ 変更点や関連した他の教育活動があれば書きこむ。

※ 計画を可視化し、実践しながらより改善を加えていく作業を日常的に行う。

【各学年の年間指導計画・別葉（職員室前の掲示）】

参考文献：かがわ道徳ラボQ & A（2018）香川大学教職大学院、香川県教育委員会、香川県教育センター 4-7 頁

## 研修4 > 自らの描いている道徳科授業の具体的なイメージ化

### 事前に準備しておきたいこと

- ・可能であれば、今年度の児童生徒の道徳ノートやファイルを見直して、自らが道徳科の授業づくりで何を意識しているのか振り返ってみる。板書写真やデータがあれば見ておくのもよい。

### その場に準備しておきたいもの

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・道徳科の教科書
- ・児童生徒の道徳ノートやファイル

### 1 ねらい

道徳科の授業づくりで、自らの描いている具体的なイメージを表現して、自分で気付くこと。その際に、授業前、授業中、授業後に大切にしていること、意識していることを具体的に書き出して、相互に意見交換することで自己の授業づくりについて理解を深めることができる。その後、解説等を読み直して、自らの授業で大切にしていることを、解説等の関係箇所に記載されている用語で確認するとより効果的である。

### 2 研修の手順

- (1) 2 人か 3 人で 1 組（できれば経験年数の長い方と短い方がペアに）をつくる。《1 分》
- (2) 各自がめざしている道徳科の授業を表現すると、どのような授業像なのかを、一人ずつ自分の言葉で話す。《2～3 分》
- (3) (2) で話した授業づくりのために、授業前、授業中、授業後で自分が何を大切にしているのか、特に意識していることを書きだしてみる。《個人で 5 分、交流 5 分》

#### 私自身がめざす道徳科の授業づくりのために日々の授業で大切にしていること

##### 1 授業前に意識し、大切にしていること

①

##### 2 授業中に意識し、大切にしていること

①

##### 3 授業後に意識し、大切にしていること

①

事後に、学習指導要領解説特別の教科道徳編の「指導方法の工夫」や「指導の配慮事項」を読み直して、道徳科で意識していることを価値づけ、意味づけするとすれば、関係箇所に記載されている用語を確認するとより効果的である。その言葉で表現し伝えてみよう。

– 10 –

## 研修6 &gt; 道徳科に生かす指導方法の工夫を具現化

## 事前に準備しておきたいこと

- ・可能であれば、自らの授業の板書写真や子どもの道徳ノートやファイルを見直して、自らの授業について簡単に語れるようにしておくとい。

## その場に準備しておきたいもの

- ・道徳科の教科書
- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編

## 1 ねらい

道徳科の授業づくりで、自らの授業を解説に記載されている道徳科に生かす指導方法の工夫を参考に、学年団等で話し合いながら、学年団で共通できるところ、揃えるべきところ、個々に任せられる所を検討する短時間の研修を行う。そのことで、若手教員の不安軽減や互いのより深い学びにつながる道徳科の授業づくりにつなげていきたい。

## 2 研修の実際（例：ア 教材を提示する工夫）

毎月（毎週）の学年団会等で、解説の道徳科に生かす指導方法の工夫に記載のアからキを1つずつ読み合い、その後、自分の授業実践での事例を紹介し話し合う。

道徳科に生かす指導方法の工夫（解説 特別の教科 道徳）

- |             |                     |          |
|-------------|---------------------|----------|
| ア 教材を提示する工夫 | イ 発問の工夫             | ウ 話合いの工夫 |
| エ 書く活動の工夫   | オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫 |          |
| カ 板書を生かす工夫  | キ 説話の工夫             |          |

- ① 解説の道徳科に生かす指導方法の工夫「ア 教材を提示する工夫」を読む。《2分》
- ② 道徳科の授業の教材提示において、どのように工夫をしているのか各自の実践を紹介する。（可能なら、先週などの板書をタブレットなどで見せながら話す）《6分》
- ③ 今週や来週実施予定の教材提示の工夫について考えを話し合う。《7分》

例：提示の前や提示の際によく見られる工夫として、

- 1：事前のアンケートを電子黒板で提示する際に子どもに予想させながら問題意識をもたせて、教材の主人公について少し紹介しながら興味を高める。
- 2：タイトルなどからイメージすることを語らせて、教材につなげていく。
- 3：教材を範読する（電子黒板の活用も）途中で、教材の鍵となる場面絵などを提示して、状況を共通理解できるように立ち止まり読みを行う。
- 4：長文で人物の関係性が難解な場合は、人物の顔と名前などを事前や事後に整理する。その際に矢印や背景色で混同しないように工夫する。

特に、「イ 発問の工夫」は事例を紹介できるように、可能なら道徳ノートやワークシートを用意しておきたい。また、実際の「ウ 話合いの工夫」について、その手順やポイントを子どもに分かる言葉で作成することも考えられる。

さらに、解説の指導の配慮事項 4 多様な考え方を生かすための言語活動も参考になる。

## 研修7 > 板書写真から授業についての振り返り

### 事前に準備しておきたいこと

- ・自らが授業をした道徳科の板書写真（できればA4用紙の大きさなどに印刷し、見やすい大きさにしておきたい）
- ・可能であれば、該当教材において子どもが表現した道徳ノートやワークシート

### その場に準備しておきたいもの

- ・振り返りコメントの用紙（【演習用シート】、参加者数分）

## 1 研修のねらいと留意点

板書写真を通して自分の実践を振り返り省察するとともに、参加者からのコメントやアドバイスをもとに新たな気付きを得ることが研修のねらいである。うまくいったかどうかや予定通り展開できたかどうかにこだわり過ぎず、板書写真を準備したい。また、校外で本研修を行う場合は、子どもの名前が分かる名前磁石等がはっきりと写っていないかなどを確認し、必ず、プライバシーに配慮して板書写真を準備する。

## 2 手順と指示する内容

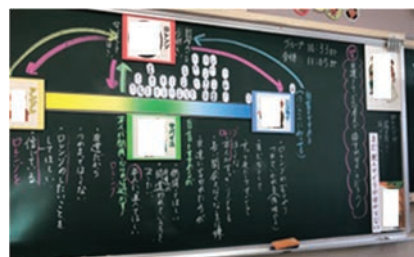
(1) 小グループで各自が用意した板書写真を見せながら、自らの授業を知らない参加者に以下の内容を伝える。《2分》

- ① 学年、教材名と内容項目
- ② 授業の山場の発問と主な子どもの反応
- ③工夫したことや特に意識したこと
- ④ 想定外の発言、予定した流れと実際に違ったこと

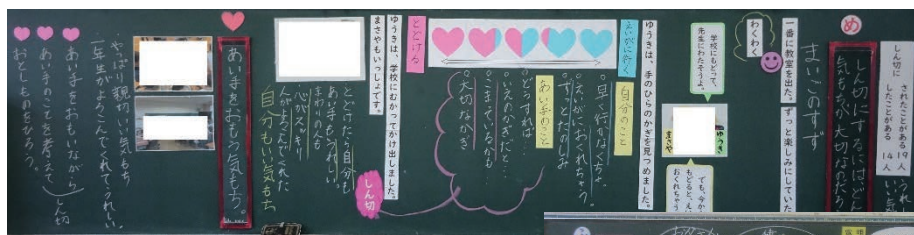
(2) 聞いた人は感想や質問を自由に発言する。《3分》

(3) 交代して、(1)(2)を繰り返す。2～3人で、15分くらいで実施可能。

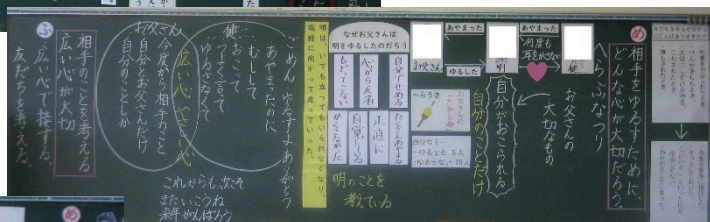
(4) 振り返りコメントの用紙（【演習用シート】）に、自らの授業に対して自分でタイトルをつけて3～5行程度でコメントを書く。記入した用紙は、板書写真の裏側に貼り付けておくといよい。



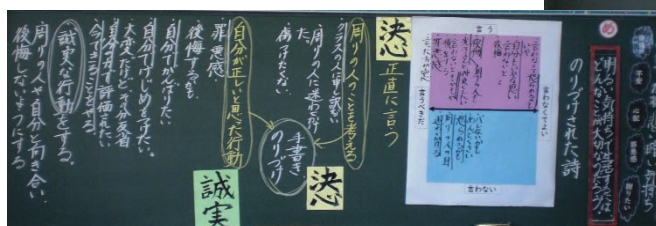
【小学校の板書】



※【小学校2年生の板書例「まいごのすず」】



※【小学校4年生の板書例「へらぶなつり」】



※【小学校6年生の板書例「のりづけされた詩」】

※ 令和6年度三観地区小学校教育（道徳）研究会 観音寺市立大野原小学校の実践より



## 研修8 > ICT を活用した道徳授業の振り返りと改善

## 事前に準備しておきたいこと

- ・道徳の授業実践後、板書写真、子どもの反応等をTeams上のフォルダに保存しておく。
- ・授業の中でうまくいかなかったところ、次回に向けての教材研究で悩んでいるところなどを入力しておく。

その場に準備しておきたいもの

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編 ・教科書

1 研修の進め方と確認しておくこと

同じ学年団の若年教員や、道徳の授業に対して不安や悩みをもった教員の道徳の授業の実践力をつけるとともに、OJTを生かし、指導技術を継承していくことを目的とする。道徳教育推進教師とも相談し、進め方を確認しておくことよい。学年団ごとの研修としても実施可能。

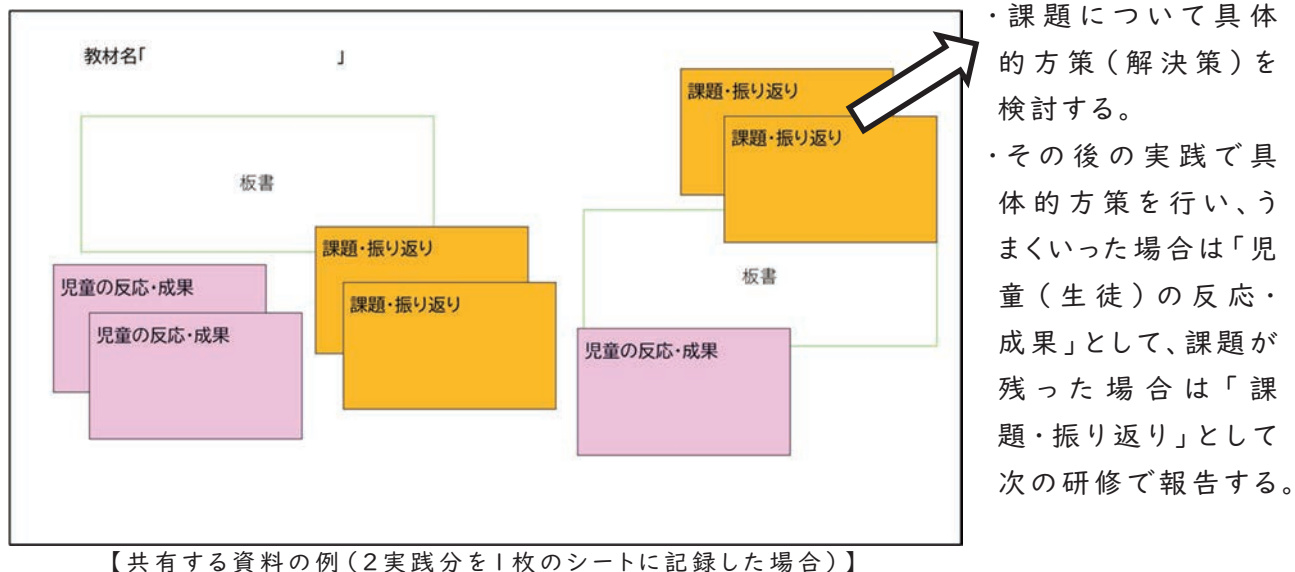
## 2 手順と指示する内容

- (1) 授業後の板書の写真や子どもの反応等をTeams上に作成したフォルダに保存しておき、共有できるようにする。授業をして生じた疑問や悩みがあれば入力しておき、団会で話し合うことを事前に1～2つに絞っておく。

※ パワーポイントのスライドをベースにして共同作業できるようにしておく と 便利。

- (2) 授業の様子について、振り返りを行い、よかったところの共有を図る。《2分》

- (3) 事前に挙げられている課題について、提案者から具体的に内容について話してもらい、課題解決に向けて意見交換を行う。その際、次回の授業に生かすことができるよう、具体的に話し合いを行う。《13 分》



※ 課題解決に向けた具体的方策については、その後の実践で取り入れ、その結果を次の研修で報告するとよい。そのサイクルが回り始めると、上記シートが蓄積され、授業の質的充実を学校全体として実感できる。





# 30分研修支援シート

---

- 11 道徳科の年間指導計画の見直し
- 12 道徳科の多様な導入
- 13 教材を読み込み、中心発問の構想
- 14 問い返しの構想
- 15 生成 AI を活用した中心発問と問い返しの検討
- 16 ロイロノート・スクールを活用した授業構想
- 17 板書計画からの授業構想
- 18 役割演技を活用した葛藤場面の視覚化
- 19 多面的・多角的に考えるための活動や思考ツールの検討
- 20 研究授業前に授業観察シートの作成
- 21 若年教員の研修 ～中心発問について～
- 22 模擬授業を通しての内容項目の深い理解
- 23 授業後の討議で発問についての振り返り
- 24 生活単元学習や自立活動と道徳教育・道徳科との関連
- 25 協働ブラッシュアップ型道徳授業



## 研修ⅠⅠ > 道徳科の年間指導計画の見直し

◎ 以下のように、30分研修を2回、前年度末(3月)と、新年度初め(4月)に実施したい。

### 【第1回 <30 分>】 事前に準備しておきたいこと

- ・次年度への申し送りの入った年間指導計画  
(本年度の学年団が見直すところを赤で修正、申し送りは付箋で書いて貼付しているもの)

### その場に準備しておきたいもの

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・行事計画、他教科等の年間指導計画

- 1 管理職が、「次年度の道徳教育の重点(案)」「めざす子ども像」等を全体に伝える。<3分>
- 2 道徳教育推進教師が、以下の点から必要な内容について全体に伝える。<5分>  
(例) ・次年度の道徳教育の研究テーマ(案)や研究の柱の設定理由 ・各学年の現状や課題  
・取り組む際に重点を置きたい道徳的価値の設定と行事等との関連について  
・道徳強調週間についての提案 ・全校集会で周知したい内容
- 3 次年度への申し送りの入った道徳科年間指導計画について情報交換<5分>
- 4 学年団会で、以下の点から必要な内容について話し合う。(残りの時間で、場所の移動可)  
(例) ・学年の児童生徒の実態把握 ・めざす子ども像の共通理解  
・授業の在り方で大切にしたい点 ・関連する行事をピックアップ  
※ 必要に応じて学年団でまとめたものを道徳教育推進教師に提出する。

### 【第2回 <30 分>】 事前に準備しておきたいこと

- ・前年度からの申し送りの入った年間指導計画

### その場に準備しておきたいもの

- ・学年経営案があれば準備しておく
- ・行事計画、他教科等の年間指導計画

- 1 道徳教育推進教師の進行により、前回の振り返りを行う。<2分>  
※ 前回決めたことを事前に掲示しておいてもよい。質問や意見を付箋で貼付することもできる。
- 2 年間指導計画の見直しと作成<25 分>  
・付箋に35時間分の教材と内容項目を書く。その際、市町の教材やふるさと教材も検討する。  
・拡大した年間指導計画の枠に付箋を貼って案を作成。各教材の教材研究や授業研究の中心となる担当なども決めるとよい。設定理由等のメモも書けば、他学年が見てもよく分かる。  
※ できた学年から黒板に貼る。
- 3 交流<3分>  
・発達段階を考慮したり、関連や発展的なつながりを考えたりする。  
・他学年の年間指導計画について、意見や質問を付箋に書いて貼っていく。
- 4 研修で作成した拡大年間指導計画を、会議室などに掲示する。道徳掲示板を設置し、月ごとに学年でローテーションしながら道徳授業を紹介すれば、計画と実施がつながっていく。

## 研修12 > 道徳科の多様な導入

### 事前に準備しておきたいこと

- ・今後、実際に扱う教材を読んでおく。

### その場に準備しておきたいもの

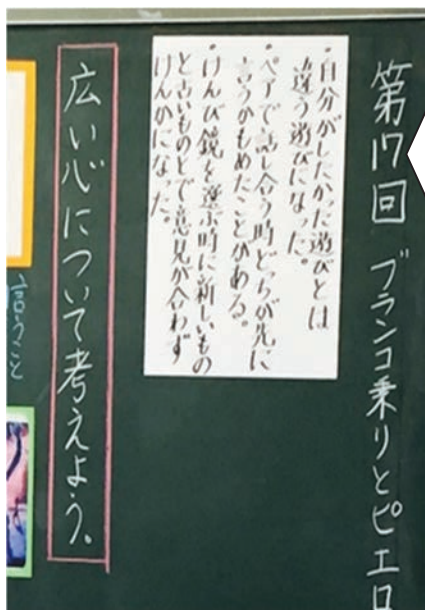
- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・教科書教材（各グループで）
- ・事前のアンケート等があれば用意しておく。

### 手順と指示する内容

- 1 導入の工夫について、解説で確認する。子どもの問題意識を大切にしたい点について、共有しておきたい。《3分》
- 2 思いつく導入をいくつかメモする。学年や教材に応じて生活とのつながりや教材内容、ねらいへの方向付けや関連する事柄など、発想を柔軟に自由にイメージする。《12分》
- 3 メモした導入を、グループで共有する。話し合いながら、子どもが学びたいと思う導入になっているかという視点で検討する。例えば、その導入で、問題意識をもつことができるかどうか、認知的不均衡のようなずれは生まれるかどうか、等を検討するとよい。《15分》

#### 例

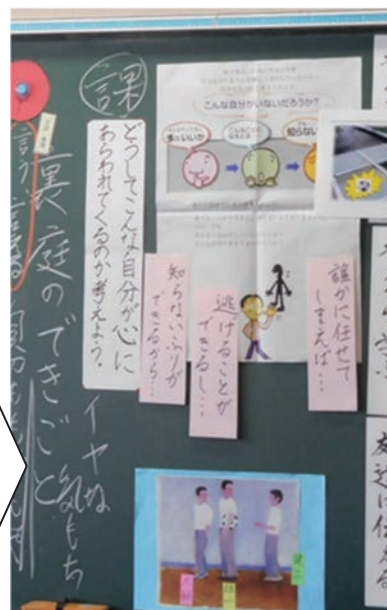
- ・意識や思いと行動のずれ（大切だと思っても、日頃行動にうつせない自分に気付く）
- ・多様な見方による互いの意見のずれ（本当の〇〇って何だろう）
- ・理想の自分と現実の自分のずれ（どうしたら理想の自分に近づけるのだろうか）
- ・主人公と自分の比較によるずれ（なぜ主人公は〇〇できたのだろう）
- ・アンケート（事前に、あるいは ICT 機器（アンケート機能）を活用して授業内で）
- ・生活実態の課題を見える化する工夫（整理整頓できていない遊具の写真）等



【導入例（小学校）：ブランコ乗りとピエロ】

内容項目に関する生活上の課題を具体的に考えて、その解決をめざすには何が大切かをイメージ。

自分の心に出てくる弱い心について、静かに自己を見つめる時間を取り、本時の課題につなげる。



【導入例（中学校）：裏庭の出来事】

## 研修13 &gt; 教材を読み込み、中心発問の構想

## 事前に準備しておきたいこと

- ・教材を読んでおく。(下記1にしたがって中心場面を考えておく、さらに時間短縮)
- ・下記2にしたがって、(教科書で設定されている)内容項目に関する解説の内容を読んでおく。

## その場に準備しておきたいもの

- ・教材文
- ・演習用シート

## 手順と指示する内容

1 教材を読み込み、3つの中心(中心場面・中心価値・中心発問)のうち、中心場面を考える。

《10分程度》

- ・一度は教材文を声に出して読む。できれば、以下のように複数回読むとよい。

※ あらすじや登場人物の心情の変容だけでなく、主人公の道徳的変容、道徳的問題や人間としての弱さや醜さも含めた人間を読む。(横山利弘「画餅からの脱却」より)

- ① 筋を読む
- ② 主人公の気持ち(心情)を読む
- ③ 道徳的問題を読む
- ④ 人間を読む

- ・演習用シートの項目1に書き込みながら、中心場面を考える。

- 道徳的に変容した、自覚した登場人物(主人公)は誰か?
- 変容、自覚するきっかけとなった出来事は何か?
- 変容、自覚して何に気付いたのか、またどうなったか(なりそうか)?

- ・副詞句を大切に読むとよい。複雑な場合は関係図に整理するとよい。

- ・一般的に、主人公の道徳的な考え方の変化の「直前」が、中心場面となる。

## 2 内容項目、道徳的価値(中心価値)を考える。《5分程度》

- ・解説で内容項目に関する概要や指導の要点を読む。教材とつなぎながら、内容項目の理解を深める(道徳的価値の広がりや深まり、価値の関連(中心価値と関連価値)等について)。
- ・演習用シートの項目2に書き込みながら、なぜこの「内容項目」だと考えるのかを、教材をもとに自分の言葉で説明する。

## 3 ねらいに深く関わる中心的な発問(中心発問)を考える。《10分程度》

- ・演習用シートの項目3に書き込みながら、中心発問を考える。
- ・中心発問に対して予想される児童生徒の反応(3名、子どもの言葉で)を思い浮かべて書く。
- ・以下のポイントを確認したい。
  - 多面的・多角的に考えられる発問になっているだろうか?
  - 道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いとなっているだろうか?
  - 予想される反応には、ねらいに関わる言葉や考えがあらわれているだろうか?
- ・児童生徒の反応を受けてより深めたい場合には、ゆさぶりや問い返しなどの発問を考えてみるのもよい。

※ この教材分析の方法や中心発問の考え方は、主には主人公の葛藤や道徳的変容が描かれている教材において活用できる。すべての教材において当てはまるわけではないことに留意。

【演習用シート】内容：3つの中心（中心場面・中心価値・中心発問）を考える

教材名（ ）

|     |                                                                                                                                                   |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事前に | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を読んでおく。（下記1にしたがって中心場面を考えておくと、さらに時間短縮）</li> <li>・下記2にしたがって、（教科書で設定されている）内容項目に関する解説のページを読んでおく。</li> </ul> |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 1 教材分析（中心場面）

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 道徳的に変容した、自覚した登場人物（主人公）は誰か？       |  |
| 変容、自覚するきっかけとなった出来事は何か？           |  |
| 変容、自覚して何に気付いたのか、またどうなったか（なりそうか）？ |  |

※ 主人公の道徳的な考え方の変化の「直前」が、一般的に中心発問の箇所（中心場面）となる。

### 2 内容項目、道徳的価値（中心価値）

|       |  |
|-------|--|
| 内容項目  |  |
| 道徳的価値 |  |

※ 解説の該当するページ（内容項目に関する概要や指導の要点）を読む。

☆ なぜこの「内容項目」だと考えるのかを、教材を基に自分の言葉で説明してみよう。

### 3 中心発問

|                                         |     |     |
|-----------------------------------------|-----|-----|
| 中心発問                                    |     |     |
| 中心発問に対して予想される児童生徒の反応（3名、子どもの言葉で思い浮かべよう） |     |     |
| Aさん                                     | Bさん | Cさん |
|                                         |     |     |

※ 場面発問「～したときに、主人公はどのようなことを考えていたのだろうか」「主人公が～したのはなぜだろう」や、テーマ発問「本当の〇〇（例えば「友情」）とはなんだろう」等を、子どもの発達段階に応じて工夫したい。

- ✓ 多面的・多角的に考えられる発問になっているだろうか？
- ✓ 道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いとなっているだろうか？
- ✓ 予想される反応には、ねらいに関わる言葉や考えがあらわれているだろうか？

## 研修14 &gt; 問い返しの構想

## 事前に準備しておきたいこと

- ・教材を読み、下記の内容項目、ねらい、中心発問については、教科書・教師用指導書で想定されている内容を記載しておく。

## その場に準備しておきたいもの

- ・教科書教材
- ・下記の演習用シート

## 手順と内容

事前準備の後、「2 中心発問」に対して予想される子どもの反応を3名分思い浮かべる。その後、それぞれへの「3 問い返し」を考え、その問い返しに対する児童生徒の反応をさらに思い浮かべる。ペアやグループで、問い返しやそれに対する反応を交代しながら考えてもよい。

## 演習用シート

## 1 内容項目、ねらい

|      |  |     |  |
|------|--|-----|--|
| 内容項目 |  | ねらい |  |
|------|--|-----|--|

## 2 中心発問

|                                        |     |     |
|----------------------------------------|-----|-----|
| 中心発問                                   |     |     |
| 中心発問に対して予想される子どもの反応（3名、子どもの言葉で思い浮かべよう） |     |     |
| Aさん                                    | Bさん | Cさん |
|                                        |     |     |



## 3 問い返し

|          |          |          |  |
|----------|----------|----------|--|
| A さんに対して | B さんに対して | C さんに対して |  |
|          |          |          |  |
| A さん     | B さん     | C さん     |  |
|          |          |          |  |

※ 子どもが、登場人物の感じたことや考えたことを発言するだけでなく、道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方についてまで発言できるように、問い返しを工夫したい。

確認(立場・対象)、根拠・理由、言い換え、具体化(例示)、対比、批判・反例、条件変更(もし～)  
柴原弘志(2023)道徳ラボ講話資料より

例 ◎ どうしてそう考えたの？ もう少し詳しく教えてくれるかな？

◎ ○○の立場だったら、どう考えるだろうか。

◎ もし～したらどうなるだろうか。

◎ いつも～しないといけないの？ 本当に(いつでも)～できるかな？

## 研修15 > 生成AIを活用した中心発問と問い返しの検討

### 事前に準備しておきたいこと

- ・研修で扱う教材を明確にしておく(学年ごとに別の教材を扱ってもよい)。
- ・各自教材を読み、自分なりに子どもに考えさせたいこと、内容項目を明確にしておく。

### その場に準備しておきたいもの

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編                      ・教材
- ・端末(wi-fiに接続したもの) ※グループで1台用意する。

#### 1 扱う教材および研修の手順の確認

- ・4名程度のグループになって、グループごとに着席する。
- ・研修担当者が、研修のおおまかな手順および研修で扱う教材を説明する。  
(研究授業の事前検討の場合は、授業者が選択した教材で行う。)

#### 2 手順と指示する内容

##### (1) 中心的な発問(中心発問)の検討 <15分程度>

- ・各グループの代表者が、テキスト生成型AI(Chat GPT、Gemini、Bing AI、Microsoft Copilot等)にプロンプト(命令文)を入力する。

##### 【プロンプト例】

- ・ジェラル王子とガリユーが登場する「うばわれた自由」という小学校の道徳の教材を知っていますか?
- ※教材の内容が明らかに異なる回答だったら、「文部科学省『私たちの道徳』に載っている教材です」などと追加で入力する。または教材をOCRソフト(書類や画像、PDFの文字を認識してテキストデータに変換するツール)で変換し、生成AIに読み込ませてもよい。
- ・この教材を扱った学習指導案を●件検索し、「中心発問」の部分を抜粋してください。

- ・示された中心発問をたたき台とし、子ども達とこの授業で最も考えたい内容は何か、どのような中心発問が効果的か協議する。
- ・研究授業の事前検討の場合は、各グループの考えを聞き、授業者がその中から選択する。

##### (2) 中心的な発問をした後の問い返し等の検討 <15分程度>

- ・各グループの代表者が、テキスト生成型AIにプロンプトを入力する。

- 【プロンプト例】 あなたは、この教材を読んだ小学5年生の子どもです。「ガリユーとジェラルが考える自由は『本当の自由』か?」(先程検討した中心発問)という発問に対して、異なる視点をもつ●人分の回答を小学5年生らしい語彙力で示してください。

- ・得られた回答に対して、様々な問い返しのパターンで生成AIに返答し、どのように問い返すのが効果的かグループで検討する。検討過程で、ねらい(何に気付かせたいか)を確認する。

##### 【問い返しの例】

- (主に一つの意見を取り上げて)「〇〇さんはなぜそう思うの?」「～ってどういうこと?」
- (複数の意見を取り上げて)「一番納得いく意見は?」「AとBを比べたら?」「共通点は?」

※ 事前に中心発問や発問の構成を考えておき、(2)を中心に取り組んでもよい。

## 研修16 > ロイロノート・スクールを活用した授業構想

### 事前に準備しておきたいこと

- ・ロイロノート・スクールを使って、研修用のクラスを作成する。
- ・共有ノートを作成し、教材を貼り付けておく。
- ・できれば各自で教材を読んでおくといよい。

### その場に準備しておきたいもの

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・ICT機器

## 1 授業者の確認

授業者が決定している場合：授業者があらかじめねらいと発問を考えておき、その発問に対して参加者が共有ノート上に意見を出す。（以下の「ブランコ乗りとピエロ」の例のように、あらかじめ発問が決まっている場合は、その発問に対する意見を共有ノート上に出し合う。）

授業者が未定の場合：教材から子どもに考えさせたいことをブレインストーミングする。（以下の「手品師」の例を参照）

## 2 研修の実際

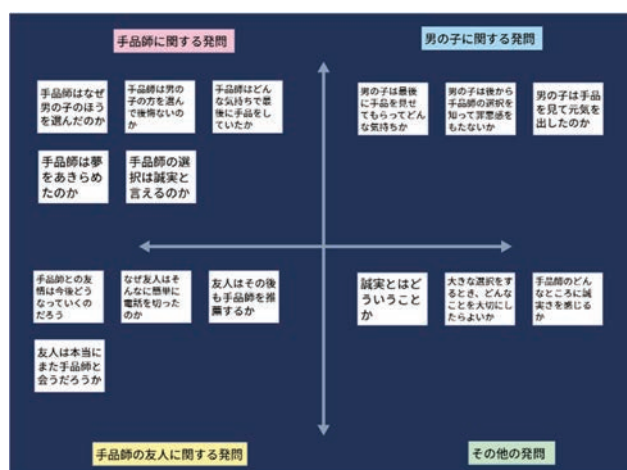
（1）授業者が未定の場合、グループごとに共有ノートを作成して、考えられる発問をとにかくたくさん出す《10分以内》。（以下の例のように、あらかじめ使用するシンキングツールを決めておくと時間短縮になる。）

（2）グループごとに考えた共有ノートは、職員全体で見られるように提出箱に提出する。その上で、「なぜその発問をするのか」「その発問でどのようなことを子どもに考えさせたいのか」等を発表し合う《10分以内》。

（3）各グループが提出した共有ノートの中から、自分がよいと思った発問をいくつか選び、自分のノートにエクスポートする。その上で発問と発問をどのようにつないだら、ねらいに迫れるかを各自で考える《10分以内》。



【共有ノート：ブランコ乗りとピエロ】



【共有ノート：手品師】

## 研修17 > 板書計画からの授業構想

### 事前に準備しておきたいこと

- ・教材を読み、自分なりに山場や子どもに考えさせたいこと、内容項目を明確にしておく。
- ・できれば中心発問や子どもの反応の予想を考えてメモしておく。

### その場に準備しておきたいもの

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・教科書教材
- ・模造紙を半分に切ったもの（模造紙全面でもよいが、作業する机や掲示等を考えて）
- ・A3用紙を縦長半分に切った短冊
- ・A4色上質紙縦長半分、1/4に切った短冊
- ・A4用紙やB4用紙
- ・付箋紙3色程度
- ・構想する教材の挿絵のコピー
- ・マジック、カラーペンなど

### 1 授業者の確認

授業者が決定している場合：授業者が子どもの実態や学級の大切にしてきた学び方等に配慮して進めたり、学年主任や道徳教育推進教師に相談しながら進めたりできるよう配慮する。

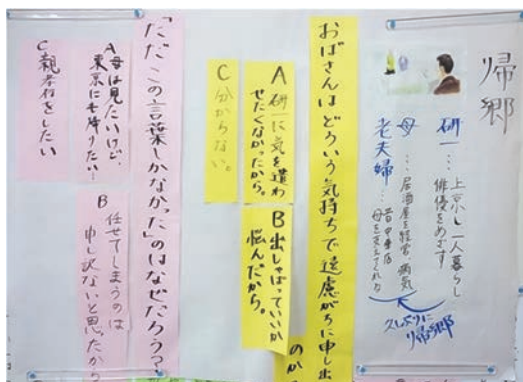
授業者が未定の場合：例えば、グループの中の若手教員を授業者と仮定して進めてもよい。

### 2 手順と指示する内容

(1) 各自が考えてきた内容項目や中心発問をもとに、授業の山場となる展開部分を話し合う《10 分以内》。グループ毎に事前に考えているメモ等を回し読みしてから話し合うと時間が短縮できる。授業の山場についての見通しがもてれば、基本発問と導入、終末等について考えを出し合ってもよいが、基本発問まで考えられれば、板書構想を実際に作成しながら柔軟に検討することも考えられる。（作業しながらの方が多様なアイデアや閃めきが期待できることもある。）

(2) 各自の作業分担をする。ア：中心発問を短冊に書く人、イ：子どもの発言を書く人、ウ：前後の基本発問等に関するやり取りを想定して書く人、エ：教材名や導入を書く人など、グループの人数に応じて、分担する。

(3) 短冊や挿絵を貼ったり、発問等を書き込んだりして、全員で一枚の模造紙に板書構想を作成する。もし、途中で時間がくれば、やめることが大切（完成させることが目的ではない）。時間があれば、作成したものを掲示して他のグループと互いに見合う。時間がなければ、悩んでいる点や他者の意見を聞きたいところを紙に書いて、一緒に貼っておくことも考えられる。



【板書構想例（道徳ラボ）：帰郷】



【板書構想例（初任者研修）：同じ仲間だから】

## 研修 18 > 役割演技を活用した葛藤場面の視覚化

### 事前に準備しておきたいこと

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編や教材文を読む。

### その場に準備しておきたいもの

- ・付箋（赤…改善点 青…良い点）
- ・教科書教材

- ・首にかけられる役割カード

主人公役

＋（プラス）の心の声役

－（マイナス）の心の声役

### 1 葛藤場面を視覚化する役割演技

主人公の両サイドに心の声役（＋役、－役）を設定する（図1）。心の声役が語り掛ける声に対し、主人公役は動作や表情だけでなく会話するように応える。主人公役から心の声役に対する語りかけをすることで、演技をしている子どものみならず、フロアの子どもにも主人公の葛藤がイメージしやすくなる。

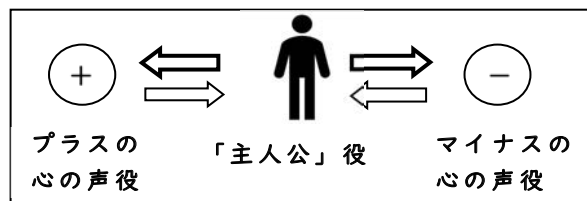


図1 葛藤場面を視覚化する役割演技  
（原（2017）を参考に一部加筆）

### 2 役割演技の進め方と環境の工夫（図2）

- ① 4人グループを編成する。
- ② 役割を決める。（主人公、心の声役（＋、－）、フロア）
- ③ 実際に各グループで役割演技をする。
- ④ グループ内で相談して役割交代を行い、もう一度役割演技を実施する。
- ⑤ 代表のグループが全体の前で役割演技をしてフロアからの声を聞く。

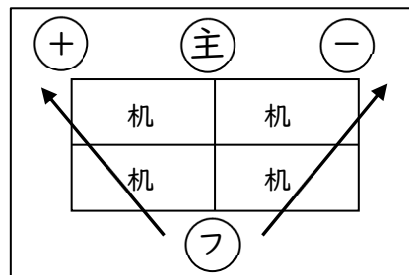


図2 役割演技を行う環境設定の工夫

※主人公役とフロア役が向かいあって座り、  
＋と－は主人公役の横に立って語りかける設定

### 3 役割演技前の教師の説明例

〇〇の場面で主人公は迷っていたね。心の中でどんな迷いがあるかな。今から主人公の见えない心の中を役割演技で考えていくよ。「～しようかな。」といった＋（プラス）の心の声役や「～したくない。だって～だもん。」といった－（マイナス）の心の声役の人が主人公に話しかけます。主人公役もそれに動作や声で反応しましょう。フロア役の人は見えて「自分なら…」とか感じたことを後から伝えてあげましょう。

### 4 研修の手順と指示する内容

- ① 教材を読み、主人公の葛藤が最も表現されている場面や箇所を探す。
- ② 4人グループ（主人公役、＋の心の声役、－の心の声役、フロア役）で実際に役割演技を行う。
- ③ 良かった点を青付箋、改善点を赤付箋に記入し、理由等を補足する。
- ④ 全体で共有し、具体的な活用場面をイメージして、話し合う。

参考文献：江橋照雄（1996）役割演技ハンドブック 明治図書

原洋子（2017）道徳科の特質を生かした学習指導の展開-主人公の心の揺れに焦点をあてた役割演技の実践- 香川大学教職大学院教職実践研究報告書 51-60 ページ

## 研修19 > 多面的・多角的に考えるための活動や思考ツールの検討

### 事前に準備しておきたいこと

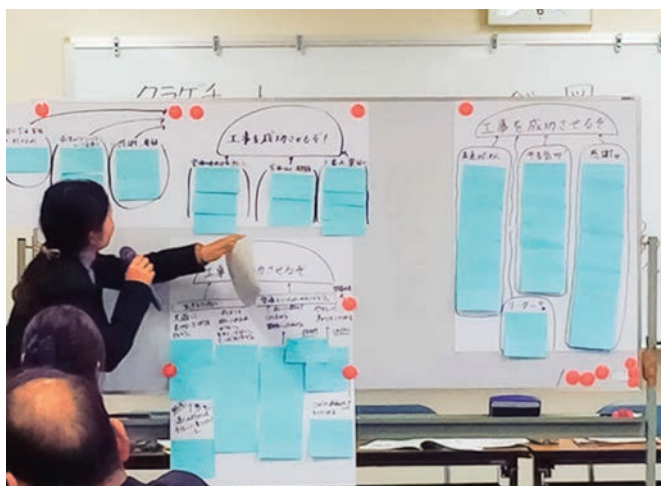
- ・道徳教育推進教師（研修担当者）は、研修で用いる教材文、中心となる内容項目、本時のめあて等を全体に周知しておく。
- ・参加者は事前に教材文を読み、児童生徒が多面的・多角的に考えるために有効だと思われる活動や思考ツール等を考えておく。
- ・考えた活動や思考ツールの目的と活用方法、予想される児童生徒の反応をメモしておいて、研修の際に説明できるようにしておく。

### その場に準備しておきたいもの

- ・付箋（2種類の色）
- ・写真記録用のデジタルカメラやタブレット等

### 手順と指示する内容

- 1 道徳教育推進教師は、早く集まった教員に対して再度教材を読んでおくように伝える。全員が集合した後、中心となる内容項目、本時のめあて等を確認する。《3分》
- 2 授業を行う際、多面的・多角的に考えるために用いたい活動や思考ツール等（予想される児童生徒の反応等が書き込まれたもの）を示しながら説明する。
- 3 説明を聞きながら、その活動や思考ツール等を用いたときのよさや問題点を付箋に書き、説明に用いたホワイトボード等に貼る（よさと問題点を書く付箋の色は変える）。  
質問や代案があるときは、このタイミングで行う。
  - ・本当にその思考ツールが適当か。
  - ・問題点を克服するために～をした方がよいのではないか。
- 4 2と3を繰り返す。一人5～6分程度であれば、4人くらいまでは実施可能。《25分程度》
- 5 今回の教材文を用いた授業で取り入れたい活動や思考ツール等を決める。（自分が考えたものでなくてもよい。また、考えたものに改善を加えることも推奨する。）



【思考ツール活用に関する研修の様子】

※ 研修後に、付箋を貼った状態のものをデジタルカメラ等で撮って印刷（共有フォルダに保存）して、紹介された内容を後からでも確認できるようにしておくといよい。

※ ICT 機器を活用して研修を進めることも可能。タブレット上で選択した思考ツールに、付箋機能を活用して児童生徒の反応を加えていくといよい。付箋やホワイトボード等の準備が省略され、より簡略化できるとともに、保存と共有も簡単にできる。

## 研修20 > 研究授業前に授業観察シートの作成

### 事前に準備しておきたいこと

- ・研究授業の指導案を読み込んでおく。

### その場に準備しておきたいもの

- ・「授業観察シート」を人数分印刷しておく（現教テーマは担当者が入力しておく）。
- ・研究授業の指導案（提案資料）

### 1 授業観察シートの使い方の共通理解

研究授業後の討議会では、授業者の主張点を踏まえ、研究授業で起こった「事実」をもとに解釈を交流することが大切である。そのために、授業を観る視点を明確にし、授業で起こっている「事実」を記録するための授業観察シートを作成する。

### 2 授業観察シートの作成手順

#### (1) 主張点を記入する。

指導案の主張点を読み、その内容を短い言葉でまとめる。（事前に担当者が入力できる場合は、入力しておく）《10分程度》

#### (2) 授業を観る視点を考え、記入する。

指導案の主張点ごとに、本時の指導案の子どもの意識及び教師の働きかけを読み解き、どのような子どもの姿が期待できるかを話し合う。また、期待できる子どもの姿を何で見取るか（発言、ノートの記事等）考え、記入する。《20分以内》

### 3 授業観察シートの記録の仕方

授業を観察する際、上記の授業を観る視点を中心に子どもの姿や教師の支援を記録する。その際、授業をみて観察者が感じたり考えたりしたことを所見欄に記入する。

#### 授業観察シートの記入例

|                                                         |                                                                                             |                     |             |
|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-------------|
| ○月 △日(□)                                                | 第 2 学年 1 組                                                                                  | 道徳科                 | 授業者(○○ ○○ ) |
| 現教テーマ                                                   | 互いに学び合える子どもの育成                                                                              |                     |             |
| 主張点                                                     | ・導入の工夫:教材「ないた赤おに」と自分の経験がつながるように・・・<br>・展開の工夫:自分の思いを表出しやすいように・・・<br>・終末の工夫:自身の成長を実感できるように・・・ |                     |             |
| ○「友達アンケート」の結果を見て、友達に対する様々な考えがあることを伝え合っている。(子どもの姿、発言)    | ○青おにに役の教師に対して、赤おにになりきって考えを・・・                                                               | ○心に残ったことを「心の貯金箱」に書き |             |
| A:「困っていたら助けてくれる人」とつぶやく。友達の「一緒に遊んでくれる人」という発言にうなずいている。・・・ | 授業を観る視点を中心に子どもの姿や教師の支援を記入                                                                   |                     |             |
| 所見                                                      | 観察者が感じたり考えたりしたことを記入                                                                         |                     |             |
| その他                                                     |                                                                                             |                     |             |

## 研究授業の見方について



授業後の討議で、子どもの姿の具体的な話が出ますか？

先生方は視点をもって授業参観していますか？

授業後の討議では、研究授業で起こっていた「事実」をもとに、互いの解釈を話し合うことが大切です。

1

## 授業参観シートとは



- ・能動的に研究授業に参加するためのしかけ
- ・授業討議を活性化させるためのしかけ

どのような視点で授業を観る必要があるかを考え、みんなで共有することが大切です。

2

## 授業参観シートの提案

| 研究テーマ                                    | 互いに学び合える子どもの育成                                                                                                                               |                            |                      |
|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|----------------------|
| 主張点                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の工夫：教材「ないた赤おに」と自分の経験がつながるように…</li> <li>展開の工夫：自分の思いを表すように…</li> <li>終末の工夫：自身の成長を実感できるように…</li> </ul> |                            |                      |
| 授業を観る視点                                  | ○「友達アンケート」の結果を見て、友達に対する様々な考えがあることを伝え合っている。<br>(子どもの姿、発言)                                                                                     | ○青おに役の教師に対して、赤おにになりきって考えを… | ○心に残ったことを「心の貯金箱」に書き… |
| 主張点や本時の指導案を読み解き、どのような視点で授業を観ることが大切かを考える。 |                                                                                                                                              |                            |                      |
| 所見                                       |                                                                                                                                              |                            |                      |

3

| 研究テーマ                                                 | 互いに学び合える子どもの育成                                                                                                                               |                            |
|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 主張点                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の工夫：教材「ないた赤おに」と自分の経験がつながるように…</li> <li>展開の工夫：自分の思いを表すように…</li> <li>終末の工夫：自身の成長を実感できるように…</li> </ul> |                            |
| 授業を観る視点                                               | ○「友達アンケート」の結果を見て、友達に対する様々な考えがあることを伝え合っている。<br>(子どもの姿、発言)                                                                                     | ○青おに役の教師に対して、赤おにになりきって考えを… |
| A：「困っていたら助けてくれる人」とつぶやく。友達の「一緒に遊んでくれる人」という発言にうなずいている。… | <p>子どもの発言、つぶやき、姿、教師の関わりなど（事実）を書いていく。</p> <p>子どもの姿を見て、感じたり考えたりしたことを書く。</p>                                                                    |                            |
| 所見                                                    | 自分の意見を積極的に伝え、友達の意見も受け入れながら考えを深めようとしている。                                                                                                      |                            |

4

## 授業参観シート ～他教科の例～

| 研究テーマ                                                                                                       | 研究テーマをもとに授業を観る視点を設定した場合     |                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 主張点                                                                                                         | ○互いに学び合う子どもの姿               | ○学ぶ楽しさを実感している子どもの姿           |
| ・コンパスで二等辺三角形を作図できる理由について、友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしている。                                                            | ・本時の課題を自分事として捉え、解決しようとしている。 | ・学んだことを振り返り、次の学びに対し意欲を示している。 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの教科でも共通に使うことができる。</li> <li>・年度初めに、子どもの姿を共有する際に使うことができる。</li> </ul> |                             |                              |
| 所見                                                                                                          |                             |                              |

5

## 授業参観シート ～他教科の例～

| 研究テーマ                                                                     | 単元の目標をもとに目指す子どもの姿を設定した場合                                         |                                                               |              |
|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------|
| 主張点                                                                       | 知識及び技能                                                           | 思考力・判断力・表現力等                                                  | 主体的に学習に向かう態度 |
| ○二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目することができるとともに、基本的な図形と関連して角について知る。 | ○図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えることができる。 | ○図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したりすることを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする。 |              |
| ・簡単に作成することができる。                                                           |                                                                  |                                                               |              |
| 所見                                                                        |                                                                  |                                                               |              |

6

【授業観察シート】

|       |      |   |    |   |     |      |   |
|-------|------|---|----|---|-----|------|---|
| 月     | 日（ ） | 第 | 学年 | 組 | 道徳科 | 授業者（ | ） |
| 現教テーマ |      |   |    |   |     |      |   |
| 主張点   |      |   |    |   |     |      |   |
| ○     |      | ○ |    | ○ |     |      |   |
|       |      |   |    |   |     |      |   |
| 所見    |      |   |    |   |     |      |   |
| その他   |      |   |    |   |     |      |   |

## 研修21 > 若年教員の研修 ～中心発問について～

### 事前に準備しておきたいこと

- ・道徳科の授業等において、それぞれが困っていることや相談したいことがあれば考えておく。

### その場に準備しておきたいもの

- ・教科書の読み物教材（参加人数分）
- ・学習用ボード
- ・付箋または短冊カード

### 1 研修のねらいと留意点

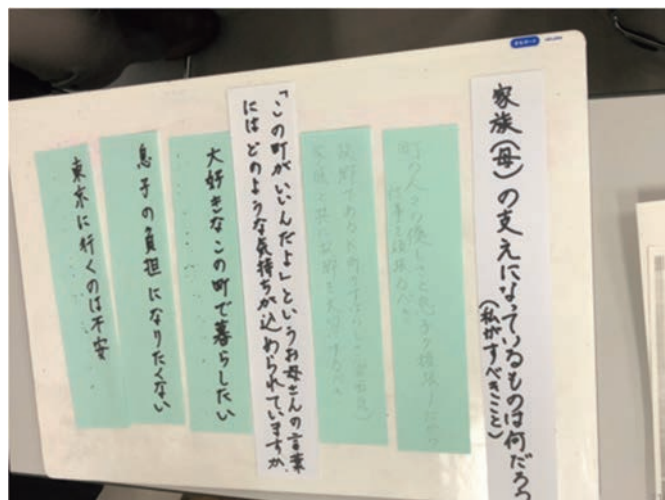
道徳教育推進教師や若年指導担当が中心となり、初任者を含む若年教員の指導案作成と授業力向上のための勉強会（研修）を短時間で行う。初任者のその週の道徳の指導案作成を可能な教員で支援することを通して、参加者が道徳教育について学べる場とする。

例えば、解説に示された「道徳科に生かす指導方法の工夫」のア～キについて、それぞれを題材に1か月に1回ずつ定期開催するなどしてもよい。特に、若年教員に過度の負担とならないように、事前準備や事後課題などはできるだけ無いようにし、たとえ途中で必ず30分で終了する。

### 2 手順と指示する内容

- (1) 前回の研修後に行った初任者の授業に対し、初任者担当が感想や成果を述べる。《2分》
- (2) その週に実施する授業で扱う教材文を各自が読み、一番大切な部分（中心として扱いたい場面）を見つけて囲む。《5分》
- (3) 囲んだ部分を全員で共有し、1か所に絞る。《5分》
- (4) 1か所に絞った部分を中心にして個々に中心発問を考え、付箋や短冊カードに書く。《5分》
- (5) 自分の考えた中心発問について説明し、学習用ボード上に共有する。《5分》
- (6) 児童生徒の予測される反応などを出し合い、その発問が、考える必然性や切実感があるものか、自由な思考を促すものであるか、物事を多面的・多角的に考えられるものであるかを軸に比較検討し、全員でよりよい中心発問を考える。《8分》

◎ 次回研修の(1)で、授業を参観した初任者担当の教員が、今回の研修で話し合っただけ決めた中心発問の成果や課題点について振り返る。そのようなサイクルが定着するとより短時間で行うことができる。



【中心発問と子どもの反応の予想を共有するボード】

※ 左の写真では、塩ビシート付の学習用ボードに中心発問と子どもの反応の予想を書いて、挟んでいる。

※ 画用紙等に短冊カードを貼り付けるのでもよい。どこか見える場所に数日でも置いて、再検討したい。

※ ICTを活用してシートを作成・共有するなどすれば、準備も簡単で保存も容易である。

## 研修22 > 模擬授業を通しての内容項目の深い理解

### 事前に準備しておきたいこと

- ・教材を1つ決め、事前配付しておく
- ・教材を事前に読んでおく

### その場に準備しておきたいもの

- ・事前配付した教材を持参
- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編

### 1 研修の意図（研修参加者と共通認識をもっておきたいこと）

道徳科で扱う内容に関し、学習指導要領解説には「教師と児童（生徒）が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である」※と示されているように、教師自らも内容項目を深く理解し自己を深く見つめることが重要であり、道徳科の授業づくりの基盤となるものである。

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」22頁、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」19頁

### 2 教材の選定

研修参加者が、授業実践で活用したことがない教材にチャレンジするのもよい。教材との出会いを大切にすることで、教師としてではなく、一人の人間として教材に向き合い、内容項目を深く理解することにつながる。

### 3 研修の流れと留意点（概要は右図のとおり）

#### （1）担当が準備した中心発問をもとにグループで話し合う《10分》

担当が中心発問を提示し、参加者が児童生徒の反応を返すなど、授業の核となる中心場面について黒板も利用しながら模擬授業的に進める。一人の人間として臨むよう、参加者に声掛けをして開始するとよい。担当学年でのこれまでの実践から中心発問を考えるなどすれば、効率的である。中心発問は、多様な意見が出るものが望ましい。

#### 模擬授業（1）（2）



#### 解説の確認（3）



#### 研修後交流（4）

#### （2）各グループで出た考えを全体共有し、気になる考えを選択する《10分》

他のグループの考え（子どもの反応、中心発問の代案など）にも触れ、黒板等にかかれた多様な考えから、気になるものを1つ選び、それが気になった理由を交流することで、一層の価値理解を進める。

#### （3）学習指導要領解説を読む《5分》

その日扱った内容項目を、学習指導要領解説で確認する。中心発問と子どもの反応が、本時の中心価値の理解につながっているかを確認したい。

#### （4）研修を通して感じたことを交流する《5分》

その日扱った内容項目について、率直に感じたこと（気づき、疑問など）を交流する。自身の内容項目に関する理解が深まることが重要である。

## 研修23 > 授業後の討議で発問についての振り返り

### 事前に準備しておきたいこと

- ・事前に考えていた他の発問例や、事前協議で出された発問に関わる意見のメモ
- ・授業前に予想した3名の子どもの発言予想のメモ

### その場に準備しておきたいもの

- ・指導案
- ・中心発問に対するやりとりが分かる授業記録（板書写真や動画記録も可）
- ・子どもの表現物（本時のノートやワークシートなど）
- ・ラインマーカーなど（4色程度）

|                |  |
|----------------|--|
| 教材名            |  |
| 指導案に書かれていた中心発問 |  |

### 手順と指示する内容

1 中心発問に込めた授業者の意図と、実際の授業で感じたずれや気づきなどを聞く。《3分》

2 授業記録をもとに、以下の作業を行う。《22分》

(1) 中心発問に 赤色のライン を引く。

(2) 中心発問に対する子どもの反応に 青色のライン を引く。

(3) その子どもの発言に対するやりとりや、授業者の補助発問に 桃色のライン を引く。

(4) それ以外の授業者が発言した部分に 黄色のライン を引く。

(5) 発言の記録から、例えば下記のような視点で再考する。

- ① 多面的・多角的に考えることができる問いであったか？
- ② 道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いであったか？
- ③ 実際の発言の中で、ねらいに関わる言葉や考えがあらわれているのはどれか？
- ④ 実際の発言の中で、クラス全体に共有したい・確認したいような言葉や考えはどれか？

(6) 教員の発言の中で、「効果的であった」「重要であった」と思われる点や、「必要なかったかもしれない」「しゃべりすぎている」と思われる点を確認しながら、中心発問を再度考えてみる。

3 次に同じ教材で授業をするならば、どのような中心発問を設定したいかを考え、書く。《5分》

|      |  |
|------|--|
| 中心発問 |  |
|------|--|

## 研修24 > 生活単元学習や自立活動と道徳教育・道徳科との関連

### 事前に準備しておきたいこと

- ・学習指導要領解説特別の教科道徳編の「内容項目の指導の観点」と、【研修24 事前資料】を読んでおく。
- ・年間指導計画から自立活動や生活単元学習の指導内容に目を通しておく。
- ・特別支援学級に在籍している児童生徒の特性について理解しておく。

### その場に準備しておきたいもの

- ・付箋、ペン ・学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・自立活動や生活単元学習の指導内容を書き出したもの（年間指導計画でも可）
- ・通常の学級における「道徳科の年間指導計画、教材一覧表」

### 1 共通理解事項

特別支援学校（学級）における道徳教育、道徳科は、学校の教育課程全体のバランスを図りながら、児童生徒や学校及び地域の実態等を考慮し、学習指導要領に基づいて適切に設定していく必要がある。

その中で、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育は、「生きる力」を育むためのものでなければならない。（特別支援学校学習指導要領総則p218-219より）

### 2 手順と指示する内容

#### (1) 学習内容を基に関連する内容項目を考え、付箋に書く

##### 例①【生活単元学習】

学習名：「クリスマス会を開こう」

目 標：みんなで協力して、楽しいクリスマス会を開くことができる

関連する内容項目

→ 「親切、思いやり」「相互理解、寛容」「規則の尊重」「国際理解、国際親善」

##### 例②【自立活動】

「事例の概要」

学習面の中で、落ち着いて順番を守ったり、ルールを守ったりすること等の社会性の獲得を目指した指導

「達成のために必要な指導項目」

①心理的な安定 … 1) 情緒の安定 2) 状況の理解

②人間関係の形成 … 1) 他者との関わり 2) 感情の理解 4) 集団理解

③コミュニケーション… 1) 言語の受容と表出 5) 状況に応じたコミュニケーション

関連する内容項目

→ ①2)「節度、節制」 ②1)「友情、信頼」 ②2)「相互理解、寛容」

(※関連する内容項目、→から後を付箋に記入する)

(2) 特別支援学級の担任を中心に学年集団（上・下学年など）で話し合う。特に大切にしたい内容項目は何なのかを、個別に明確化していく。

(3) 生活単元学習や自立活動の内容にリンクできる道徳科の教材を、教材一覧表を基に吟味する。

※ (2)(3)は、一方だけの実施でも構わない。特別支援学級担任の目的に合わせた研修が、職員全体の共通理解となる。

## 【研修24 事前資料】

### ○ 特別支援学級の教育課程について

特別支援学級においては、学校教育法施行規則第138条で、小学校・中学校の教育課程を基本としながら「特別の教育課程」を編成することが認められています。この「特別の教育課程」とは、児童生徒の学習や生活に必要なとなる日本語の指導や障がいのある児童生徒の困難を改善・克服するための指導を行う教育形態です。

特別支援学級では、児童生徒の実態に応じた教育形態の中に、「自立活動」や「生活単元学習」が含まれています。「自立活動」と「生活単元学習」には、以下のような違いが見受けられます。

【自立活動】 障がいによる学習や生活上の困難を克服するために必要な知識や技能、態度、習慣を養うため、必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導します。内容は、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素で構成しており、「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」、「コミュニケーション」の6つの区分に分類・整理されています。

【生活単元学習】 各教科等を合わせた指導で、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために一連の活動を組織的に経験させる指導。自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学ぶことを目的とします。一律に必ず行うというのではなく、児童生徒の実態に応じて行います。**生活単元学習は、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の一部又は全部について合わせて授業をすることを指します。**

#### （例）生活単元学習「クリスマス会」

→ クリスマス会に関連した活動の中で、必要な知識や技能を身に付ける。

プログラムを書く（国語） / 飾り付け（図工） / クリスマスのお菓子を買う（生活科）

お菓子を買う計算（算数） / 友達と協力する（道徳） / 学級として目標に向かう（特活）

これらをミックスするため、時間割で「生単」とし、それに合わせた教育課程を事前に組んでおきます。

### ○ 道徳科の扱い

特別支援学校に関連する道徳の扱いは、特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領第7節（p74 H29.4月公示）の配慮事項に、また総則編（H30.3月公示 p305-329）にも同様の内容が明記されています。

【各教科における指導の基本方針】（特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編 p310より）

学校における道徳教育は、**道徳科を要として**学校の教育活動全体を通じて行われる。各教科等でどのように道徳教育を行うかについては、学校の創意工夫によるところであるが、各教科等は、各教科等の目標に基づいてそれぞれに固有の指導を充実させる過程で、道徳性が養われることを考え、見通しをもって指導することが重要である。

【指導内容の重点化】（特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編 p317より）

道徳教育を進めるに当たっては、児童の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえると共に、学校、地域社会等の実態や課題に応じて、学校としての指導の重点に基づき、各学年段階の指導内容についての重点化を図ることが大切である。

道徳教育は普段から通常の学級と同様に指導していく必要があります。その上で、道徳性を養うため、一歩立ち止まる時間として、道徳科を取り入れることが、大切になります。

☆ 研修では、「特別の教育課程」の共通理解を図ります。その上で、各学習が内容項目とどのように関連できるかを考えることや道徳科で使用する教材と自立活動や生活単元学習がうまくリンクできるものがあるかどうかを吟味することなど、道徳科を実施する際、想起場面や児童生徒の根拠を探るエピソードを表出させる足掛かりとしていきます。

研修25 > 協働ブラッシュアップ型道徳授業

事前に準備しておきたいこと（協働研修②・③）

・授業で用いた指導略案に、良かった点、改善点、みんなで考えたい点を書き込んでおく。

その場に準備しておきたいもの（協働研修②・③）

・端末          ・授業①（②）の指導略案          ・授業①（②）で行った板書の写真

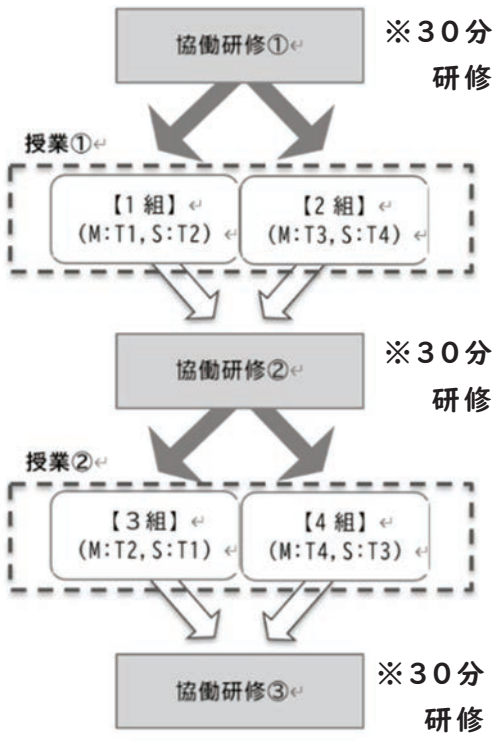
1 研修全体の概要

本研修は、30分研修（「協働研修」と名称する）3回と授業実践2回の計5回で構成される。  
具体的には、数週間の期間で行う学年内研修を想定している。まず学年団で、2チームに分かれる。次に、同じ教材を用いて、チーム・ティーチングで2クラスに対して授業①を行う。授業実施後には、学年団で省察を行い、改善点等を明らかにした上で授業②に臨む（下図参照）。

2チームに分かれる際には、一方的な指導にならないようにメンバーの組み合わせを考慮し、教員間のコミュニケーションを促進できるよう努める。

2 各研修の内容

|       |                                                    |
|-------|----------------------------------------------------|
| 協働研修① | 授業のねらいの共有（教材は事前に読んでおくとともに、「指導の要点」や「ねらい」に絞って検討を行う。） |
| 授業①   | 1組[T1(M)・T2(S)]、2組[T2(M)・T4(S)]で道徳授業を行う。           |
| 協働研修② | 授業①の省察・改善<br>※詳細は下記参照                              |
| 授業②   | 3組[T3(M)・T1(S)]、4組[T4(M)・T2(S)]で改善したもの実践を行う。       |
| 協働研修③ | 授業②の省察・改善（授業①と同様）<br>授業①②から明らかになったことの整理            |



3 協働研修②③の具体的な内容（30分構成）

（1）各教員が授業①を踏まえて、良かった点、改善点、みんなで考えたいこと等）について、伝え合う。

≪10分以内≫

※適宜、解説の「評価の観点（ア～カ）」を参考にする。

※適宜、PMI（右図）などの思考ツールを使用する。

（2）特に深めたいことを1～3つに絞る。≪5分以内≫

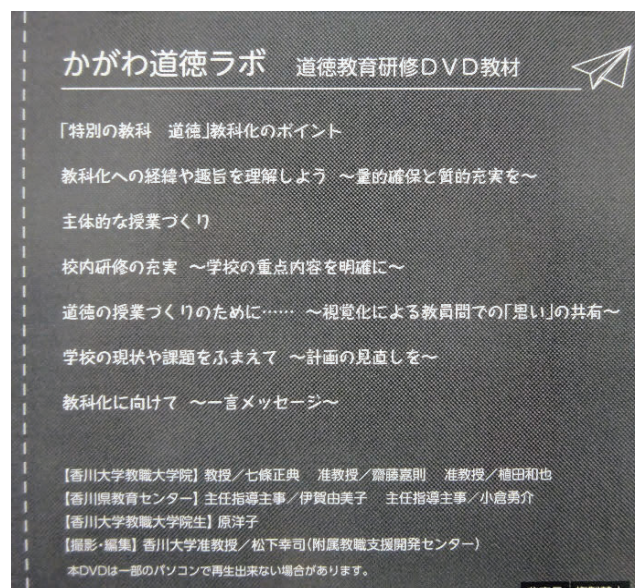
（3）深めたいことについて学年団で検討し、授業②に向けた改善の方策を考える。≪15分以内≫

※指導略案等は、オンライン上で共同編集を行いその都度改善する。

| P Plus<br>プラス<br>いいところ | M Minus<br>マイナス<br>だめなところ | I Interesting<br>インテレスティング<br>おもしろいところ |
|------------------------|---------------------------|----------------------------------------|
|                        |                           |                                        |

◎ 本研修は、東京学芸大学教職大学院生・五十嵐悠葵さん、上山結子さん、君山史李圭さん、佐野支帆子さんが考えた30分研修のアイデアを基に再構成したものです。

## 校内研修や個人研修教材として作成してきたこれまでの道徳ラボ研修教材



## 平成 28 年度研修教材【「かがわ道徳ラボ」道徳教育研修DVD教材】

### かがわ道徳ラボQ&A 目 次

- 1 なぜ、道徳が教科になるのですか？何がかわるのですか？
- 2 学校として、35 時間の量的確保を教員が意識するための具体的な手立てはありませんか？
- 3 道徳科の実施にあたり、管理職はどのようなことに留意すればよいのですか？
- 4 道徳教育推進教師が、特に意識しなければならないことは何ですか？
- 5 道徳科の指導方法では、特に何を意識すればよいのですか？
- 6 道徳科での問題解決的な学習で気をつけたいことは何ですか？
- 7 複数の価値が対立したり、結末が描かれていないオープンエンドの教材を扱ったりする際の指導では、どのような配慮や支援が大切ですか？
- 8 道徳の教科化について、保護者への説明や情報発信はどうすればよいのですか？
- 9 年間指導計画や別葉の作成において、どのように作業を進めればよいのですか？
- 10 発達障害等の配慮を必要とする子どもたちにどのような支援を大切にすればよいのですか？
- 11 道徳教育を柱として、幼小連携を推進したいのですが、何から取り組めばよいのですか？
- 12 道徳科の評価を行う際のポイントや評価の記載はどのように進めていけばよいのですか？
- 13 道徳科の研修が必要であると思うが、教員の研修の必要性や大切さを共通理解する際に知っておけばよいことは何ですか？
- 14 道徳科に関する効果的な校内研修の工夫として何かヒントはありませんか？
- 15 完全実施直前に校内研修等で、共通理解を図るためにも確認しておくべき資料や文章等は何ですか？
- 16 道徳科になり、教科書が使用されますが、今までの郷土資料や学校で開発した教材等は使えますか？
- 17 県教育委員会が作成してきた郷土資料や道徳関係の資料等には、どのようなものがありますか？
- 18 道徳科に関することでの質問や相談を大学や教育センターにすることは可能ですか？
- 19 道徳科の授業や校内研修等でタブレットの活用でどのようなことができますか？
- 20 教科化を機に、教員自身の倫理観やモラルの向上を高める何かヒントはありませんか？

平成 29 年度研修教材【かがわ道徳ラボQ&A】Q 1 からQ 2 0 まで、道徳の教科化や道徳科の授業づくりに関わる悩みや課題と思われる内容をQ & A の形で掲載 全 50 頁





## 四国道徳ラボ道徳研修DVD教材 質の高い道徳科の授業づくりをめざして

- |                     |                                          |
|---------------------|------------------------------------------|
| 1. 挨拶・説明            | 10. インタビュー編<br>「質の高い授業づくりのために大切にしてほしいこと」 |
| 2. 道徳科の授業における課題     | 11. 子どもが主体的に学ぶ道徳科の<br>授業づくりをめざして         |
| 3. 授業づくりⅠ基礎編        | 12. 管理職の皆様へ                              |
| 4. 教材分析のポイント        | 13. まとめ                                  |
| 5. 発問づくりについて        |                                          |
| 6. 多様な指導方法について      |                                          |
| 7. 道徳科の評価について       |                                          |
| 8. 配慮の必要な子どもへの支援、指導 |                                          |
| 9. 授業づくりⅡチャレンジ編     |                                          |
| 9-1 情報モラルの授業について    |                                          |
| 9-2 役割演技について        |                                          |
| 9-3 道徳ノートの工夫        |                                          |



メインメニューへ  
戻る

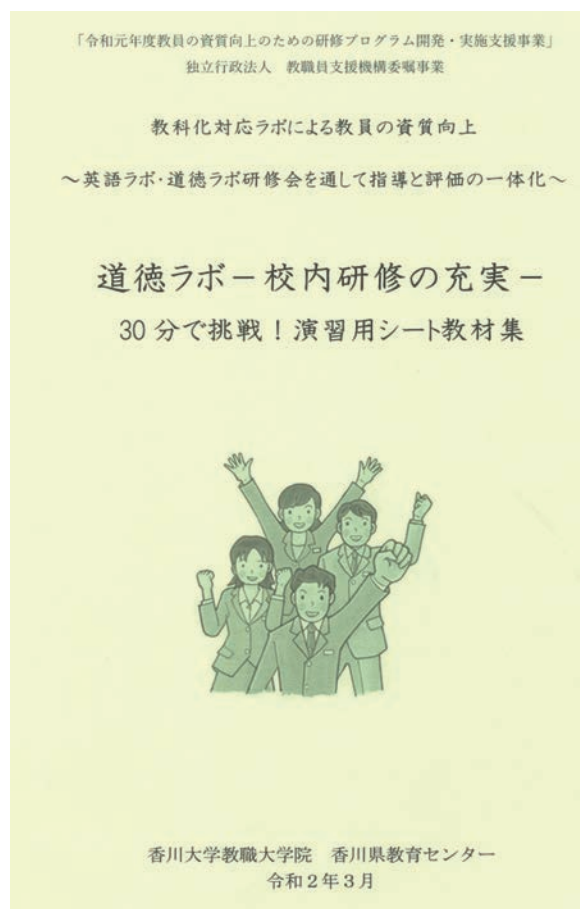
## 平成30年度研修教材【四国道徳ラボ道徳研修DVD教材質の高い道徳科の授業づくりをめざして】

### 目 次

- 1 道徳科の授業での課題を互いに確認
- 2 教材を読みこみ中心発問と児童生徒の反応の予想
- 3 実践書きこみ用 中心発問と児童生徒の反応の予想
- 4 若年研修用 中心発問と児童生徒の反応の予想
- 5 授業後の協議用 発問について ふり返ろう
- 6 板書を想定して授業構想
- 7 板書写真から授業について ふり返ろう
- 8 実践書き込み用 板書写真から授業について ふり返ろう
- 9 道徳科の評価文作成の前に①：できることの3段階
- 10 道徳科の評価文作成の前に②
  - 道徳 校内研修用資料（評価のポイント）小学校
  - 道徳 校内研修用資料（評価のポイント）中学校
- 11 授業後の意識の継続を図る背面掲示の作成
- 12 道徳科の多様な導入
- 13 若年教員の研修 ～中心発問について～
- 14 道徳科の授業における発問
- 15 道徳ノートやワークシートを活用した見取り
- 16 中心発問から板書構想
- 17 多面的・多角的に考えるための活動や思考ツールの有効な活用
- 18 道徳科の計画から実践への見える化づくり
- 19 道徳科の年間指導計画の見直しと実践計画
- 20 地域教材と教科書教材の検討

校内研修や個人研修教材として作成してきたこれまでの道徳ラボ研修教材

令和元年度研修教材【道徳ラボー校内研修の充実—30分で挑戦！演習用シート教材集】





|                              |
|------------------------------|
| 多様に活用できる心情メーターづくり.....       |
| 心のものさし（心のグラデーション、心のつなひき）..   |
| どこから見ても同じだね 心情円盤（心情円）づくり.... |
| 心の色づくり.....                  |
| ロールプレイのための 何度も使える丈夫なお面づくり    |
| 多様に立場を選択できる円すい（三角）キャップ.....  |
| 個々の考えや理由を表現する 短冊カード.....     |
| 役割を視覚的に表示する役割カード.....        |
| 多様な支援として活用できる表情カード.....      |
| 自分の考えや立場を明確にする意思表示カード.....   |
| 胸ポケット入れ立場選択カード.....          |
| 学びを広げ深める付箋やカードの多様な活用.....    |
| 自己を見つめる振り返りに3色付箋の活用.....     |
| 環境づくりでの支援や工夫.....            |
| 心の状態を示すヒント～保健室よりのヒント～.....   |
| 印刷資料.....                    |

## 令和2年度研修教材【道徳科授業における教具作成支援シート集】

平成28年度から令和2年度まで、道徳ラボで取り上げた内容や参加者のニーズに応じて校内研修や個人研修で活用できる道徳教育研修教材として冊子やDVDを作成してきた。

これらの研修教材が参加者の多様な学びの広がりにつながった事例の一部を紹介する。

《事例1》 H28の教職大学院生の置籍校がDVD研修教材を校内研修で活用 ⇒ 各教員の疑問や悩みを「何でも相談ネット」でやり取り ⇒ 複数教員がH29道徳ラボに参加 ⇒ 夏休み校内研修を支援・協力 ⇒ H30も継続的に参加

《事例2》 H29作成教材を他県の指導主事が、研究指定校等へ紹介し活用 ⇒ H30四国道徳ラボに参加 ⇒ 県を超えて道徳教育に関する情報交換と研修情報の共有。その後も、継続的に参加し研修教材の活用と使用後の反応の報告など

## 令和6年度道德ラボ成果教材

「道德ラボ15分・30分研修支援シート集」 編集、執筆者、作成協力者

### 香川大学教職大学院

教 授 植田 和也(企画、執筆)  
准教授 清水 顕人(編集事務局、執筆)  
准教授 中名 紀子(執筆、編集協力)  
准教授 大西 美輪(執筆、編集協力)  
教職大学院生 時岡 海大(執筆)

### 指導助言

香川大学 名誉教授 七條 正典  
東京学芸大学 教授 齋藤 嘉則

### 執筆者

東京学芸大学 准教授 浅部 航太  
宇和島市立鶴島小学校 教諭 小島 啓明  
岡山県総合教育センター 指導主事 近藤 広理  
弥富市立十四山東部小学校 教諭 鈴木 賢一

### 作成協力

香川県教育センター

主任指導主事 一田 幸子  
指導主事 天野 歩

高松市総合教育センター

ICT推進室 室長補佐 西山 英希  
指導主事 前場 智美  
指導主事 靄羽 美緒

令和6年度東京学芸大学教職大学院生

五十嵐 悠葵、上山 結子、君山 吏季圭、佐野 支帆子

令和6年度本学教職大学院生(令和6年度「道德教育の実践研究」受講者)

常包 孝彦、安田 遥平、山本 澄代、池田 葵、河原 聡美、野崎 由莉、原口 弓子

### イラスト

高松大学 准教授 佐々木 啓祐

## 令和6年度 道徳ラボ運営組織体制

### 香川大学教職大学院・教育学部

学部長 平 篤志  
教 授 植田 和也  
教 授 金網 知綱  
准教授 清水 顕人  
准教授 中名 紀子  
准教授 大西 美輪  
教務課大学院係 上田 祐史  
事務課(北)総務係 奥野 雅統

### 香川県教育センター

所 長 福田 宏志  
教職員研修課 課長 田上 重士  
主任指導主事 一田 幸子  
指導主事 天野 歩

### 高松市総合教育センター

所 長 真鍋 康秀  
支援係長 泉保 光邦  
ICT 推進室 室長補佐 西山 英希  
指導主事 前場 智美  
指導主事 靄羽 美緒

## あ と が き

平成28年度にスタートした道徳ラボも今年度で9年目となりました。これまでの道徳ラボに参加されている方のアンケートから、「ラボでの学びを校内に生かしたいが、そのために研修の手順やそのまま使える教材分析や指導方法等に関するシートがあれば有難い」といった声を複数いただきました。そこで、令和元年度の道徳ラボ成果教材として「道徳ラボ 一校内研修の充実-30分で挑戦!演習用シート教材集」を作成しました。それから5年が経ち、その間、30分演習用シートにも好評をいただき、Nitsの中央研修(R3.R4 中核教員対象)等でも演習等で実際に活用させていただきました。

「道徳ラボ15分・30分研修支援シート集」は、令和元年度版を基盤として、昨今の学校現場の事情を鑑み、新たに15分でも取り組める内容を加えて充実を図りました。是非、有効に活用していただき、各学校における校内研修や学年団研修等が短時間でも充実して実施されますことを願っています。また、アレンジや新たな提案をお寄せいただければ幸いです。

植田 和也



令和6年度独立行政法人教職員支援機構における  
連携教職大学院等を対象とする地域センター事業

**令和6年度道德ラボ成果教材  
「道德ラボ15分・30分研修支援シート集」**

四国地域教職アライアンス香川大学センター  
令和7年3月

編集事務局：清水顕人研究室  
E-mail [shimizu.akihito@kagawa-u.ac.jp](mailto:shimizu.akihito@kagawa-u.ac.jp)

国立大学法人 香川大学大学院教育学研究科  
高度教職実践専攻(教職大学院)  
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1



